

登録コード	A1Y11100	開講年度	2026				
授業科目	食料生産システム科学概論					担当教員	松島 憲一 他
英文授業名	Introduction to Food Production Systems Science						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限	対象学生	農学部1年生（食料生産システム科学コース）
講義室	東洋計器講義室（20番講義室）		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Aカリ, 2025Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】1.【教養・基礎学力】豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。				食料生産システム科学に関わる幅広い植物・動物・微生物・土壌・環境および社会科学の専門分野について基礎知識を習得している		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	気候変動や食料需要の変化によって食料生産の形態が大きく変化しつつあります。持続的で安定した食料生産、食料供給、そして食料消費の連環が私たちに求められている技術的そして社会的な課題です。食料生産の基盤となる生物資源や環境を農学的・生命科学的視点で捉え、その基盤から応用までを体系的に概説します。						
(5)授業計画	第1回 食料生産の概要と最前線（松島、コース長） 第2回 日本の農業・世界の農業（若林） 第3回 穀物生産（松浦） 第4回 動物生産（米倉） 第5回 農産物利用（濱渦） 第6回 蔬菜・果樹生産（松島） 第7回 動物飼養（上野） 第8回 動物繁殖（高木） 第9回 病害防除（入枝） 第10回 農業環境（加藤） 第11回 農業経営（小林） 第12回 動物バイオテクノロジー（鏡味） 第13回 スマート農業（渡邊） 第14回 アグロエコロジー（齋藤） 第15回 持続的可能な生産（竹田） 授業アンケートの実施						
(6)自主学習の指針	以下に記す、必要な自主学習時間を確保して、期末試験に臨んで下さい。 週1回の授業で15回の授業で2単位の授業（本講義が該当）では90時間の学修が必要です。そのうち、授業時間は30時間（2時間×15回）なので、自習学習時間60時間（4時間×15回）が必要となります。						
(7)成績評価の基準	成績の評価基準は、秀：授業の達成目標水準から見て卓越している、優：授業の達成目標水準よりかなり上にある、良：授業の達成目標水準よりやや上にある、可：授業の達成目標水準にある、不可（D）：授業の達成目標水準より下にある、不可（F）：授業の達成目標水準に全く及ばない、により評価します。なお、成績の評価は授業終了後に行う小テストまたは小レポート（40％）と期末試験（60％）により評価します。						
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業終了後に授業内容の理解を問う小テストまたは小レポートを課します。これを基に、期末筆記試験に向けてしっかりと予習・復習して下さい。						
(9)テストやレポートの予定	毎回の授業で小テストまたは小レポートを課します。 期末筆記試験を行います。						
(10)成績評価の方法	食料生産システム科学分野における基礎的な知識や技術を理解・修得したかどうかをみる小テストまたは小レポート（3点×15回を40点に換算）と期末筆記試験（60点）を総合して評価します。成績の評価基準は、不可（0-59点）、可（60-69点）、良（70-79点）、優（80-89点）、秀（90-100点）とします。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	担当の各教員が講義時間内に原則として対応します。必要に応じメールでも対応します。担当教員のメールアドレス一覧は、eALPSに掲載します。 オンラインラーニングアドバイザー（農学部2年次生以上）が受講生のレポート作成の支援や学習相談にオンラインで当たる予定です（詳しくはガイダンスなどでお知らせします）。						
(12)履修上の注意	スケジュール（各教員の担当順など）は変更になる場合があります。 農学部食料生産システム科学コースの学生は「必須科目」なので、必ず受講して下さい。 予習復習などの授業時間外学習も併せて行い、授業内容の理解に努めて下さい。						
【教科書】	使用せず、資料等を適宜配布します。						
【参考書】	授業時に必要に応じて適宜紹介します。						